

### (3) 鳥 類

鳥類 001	ペリカン目 サギ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i> (Gmelin)</b>		

#### 【選定理由】

夏鳥として、5月頃に渡来し、河川敷や池沼周辺のヨシやガマの茂った水辺に生息し繁殖する。市内においては、1990年代まではわずかではあるが生息し繁殖もしていた。近年は、河川の整備・埋め立て・開発などの影響で、繁殖に適した環境はほとんど残されていない。そのため、繁殖はもちろん、渡来も確認されていないので、今後も繁殖の可能性は極めて低い。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B類
環境省	準絶滅危惧

#### 【形態】

全長 31~38 cm。小型のサギ類で頭部は黒色。上面が茶褐色で下面は淡黄白色。飛行時は翼の風切が黒く、黄褐色の大雨覆とのコントラストが鮮明。虹彩は黄色く、瞳孔は丸い。嘴は黄色い。尾羽は短くて黒色。

幼鳥は体下面が白っぽく、上面、下面ともに褐色の縦斑がある。

繁殖期にはウォッ、ウォッ、またはウォー、ウォーと鳴く（桐原ほか, 2000）。



名古屋市緑区, 2004年7月9日, 浅井 光 撮影

#### 【分布の概要】

##### 【市内の分布】

1990年代までは矢作川河川敷やため池などで生息し、稀に繁殖も確認された。近年は、繁殖のみならず生息も確認されていない。

##### 【県内の分布】

夏期に河口部や平野部の池沼のヨシ原に生息し繁殖するが、どの地域でも個体数は急速な減少傾向にある。

##### 【国内の分布】

主に夏鳥として飛来し、九州以北で繁殖する。本州以南では越冬する個体もある。

##### 【世界の分布】

東アジアから東南アジア・インドにかけてと、ミクロネシア西部・セーシェル諸島に分布（桐原ほか, 2000）。

#### 【生息地の環境／生態的特性】

池沼や河川周辺のヨシ原や休耕田など湿地などに生息する。昼夜関係なく活動し、餌は主に魚類であるが、小型のエビ類・カエル・昆虫なども捕食する。水際やヨシの茎に止まって、水面を上からのぞき込むようにして、魚など獲物が近付くと素早く嘴で捕える。ヨシなどの枯葉を集めて皿型の巣を作る。人やタカなど外敵が近付くと嘴と頸を真っすぐ上に伸ばして身動きせず擬態するので、見つけにくい。

繁殖期になると、夜間にヨシ原の中で「オー・オー」と聞こえる声で、10回前後繰り返し鳴く。早朝にヨシの茎を這い上がって鳴くこともある（叶内ほか, 1998）。

#### 【現在の生息状況／減少の要因】

市内においては、春秋の渡りの時期に通過する個体が稀に確認されるだけで、定期的な渡来は確認されていない。そのため、生息し繁殖する可能性は極めて低いと思われる。県内においても繁殖地の開発や環境悪化により、急速な減少傾向にある。

減少の原因としては、矢作川や乙川などの河川敷における河川改修、スポーツ目的、散策路などの諸整備の進行。ため池の整備や宅地造成のための池沼の埋め立て工事などによる影響で、繁殖に不可欠なヨシ原やガマの自生する水辺環境の消滅が考えられる。さらに、水田が麦畑や大豆畑などの転作による影響で乾燥化が進み、餌場となる環境悪化も減少の要因と考えられる。

#### 【保全上の留意点】

河川敷・池沼・遊水地などのヨシやガマの自生地の保護が必要である。そのため、河川域や池沼周辺を含めた水辺環境を残し、多様な生物が棲める場所の保全・整備が望まれる。

#### 【引用文献】

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, pp.70-71. 文一総合出版社, 東京.

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, pp.182-183. 山と溪谷社, 東京.

愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.105.

愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 002	タカ目 タカ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>クマタカ <i>Nisaetus nipalensis</i> Hodgson</b>		

**【選定理由】**

季節的な大きな移動はせず、急峻な山間部に周年生息し繁殖する。採餌や繁殖活動には生物多様な豊かな森の環境が必要であるが、近年は、種々の開発や森の植生の変化もあり、市内においては生息可能な場所が狭められ、生息個体の減少傾向にある。今後も環境の悪化が進めば、生息個体数はさらに減少し絶滅が危惧される。種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）指定種である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B類
環境省	絶滅危惧 I B類

**【形態】**

全長は雄が70~75cm、雌が77~83cmでトビより大きい。翼開長は雄140~165cm。雌雄はほぼ同色で、頭上と頬周辺は黒褐色で後頭に冠羽がある。成鳥は黒っぽい顔に黄色の目が輝く精悍なタカ類である。体の上面は暗灰褐色で体下面は淡色である。飛翔時は翼の幅が広く、翼先と後縁に丸みがあり、風切りと尾羽に明瞭な黒色横帯がある。

幼鳥は喉から下面が白っぽく、脇と下尾筒に淡褐色の横斑がある。目の色は黒っぽく見える。

鳴声はピーッ、ピョピョ、ピョッピイーなど(五百沢ほか, 2004)。



静岡県森町, 2013年1月30日, 浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

急峻な山間部に、わずかながら生息している。個体数は極めて少ない。

**【県内の分布】**

主に北東部の山間部に周年生息し、繁殖しているが個体数は少ない。

**【国内の分布】**

留鳥として九州以北に生息している。

**【世界の分布】**

インド西部・スリランカ・ヒマラヤからインドシナ・中国南部・台湾に分布(五百沢ほか, 2004)。

**【生息地の環境／生態的特性】**

山間部の森林に生息する。急峻な谷を中心に生息するため、平野部で見られることはほとんどない。はっきりした縄張りを持ち、峻険な谷間に帆翔するが、樹上に止まっている時間のほうがはるかに長い。上空を帆翔したり、樹上に止まって餌を探し、ノウサギ・リス・ネズミなど哺乳類や爬虫類、両生類、ヤマドリ・キジなどの鳥類も捕獲し餌とする。

樹上に枯れ枝を組み合わせて、円形の大きな巣を作る。幼鳥は巣立ってから親の周辺に長くとどまる特性がある。雛の巣立ちは6月頃であるが、その後数ヶ月から1年前後も親と行動をともにする(叶内ほか, 1998)。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

生息数は極めて少なく、しかも、毎年繁殖は期待できないつがいもあり減少傾向にある(愛知県環境調査センター, 2009)。山林が住宅地や工場施設などの開発、道路網の整備などにより減少し、生息域が縮小されていることが考えられる。そして、山林がスギ・ヒノキによる植林地の拡大により、生物の多様性が失われ、餌となる哺乳類や鳥類の減少傾向にあることも、本種の生息に影響を与えていることが推測される。

**【保全上の留意点】**

縄張りを持ち定住性が強いので、生息地域の保全が必要である。開発などによる森林の伐開・造成地化に伴う影響を受けやすく、これらの開発を極力防ぐことが望まれる。さらに、生物多様性のある森の再生に取り組む必要がある。

**【引用文献】**

- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.40-41. 文一総合出版, 東京.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男, 1995. 図鑑 日本のワシタカ類, pp.184-194. 文一総合出版, 東京.
- 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.108. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

- 環境省自然環境局野生生物課, 2003. 猛禽類保護の進め方(特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて), pp.26-33. 財団法人日本鳥類保護連盟, 東京.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 003	ブッポウソウ目 カワセミ科	岡崎市 絶滅危惧 I A類
<b>ヤマセミ <i>Megaceryle lugubris</i> (Temminck)</b>		

**【選定理由】**

河川の中・上流部や池沼に周年生息し繁殖するが、本市における生息数は急速に減少し、極めて少なく絶滅が危惧される。

河川や池沼で上空からダイビングをして餌の魚を獲るが、餌に適した小魚の減少が、生息数の減少の要因の一つと思われる。そして、繁殖は河川や池沼周辺の崖、土砂や採石の採取場などの崖に穴を掘り巣穴とするが、適した崖は少ない。河川の護岸や道路の拡幅や新設工事においても、崖や山肌はセメントで固め補強されることが多く、適した巣穴の確保が困難になっていることも生息数減少傾向の要因の一つと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 I B類
環境省	リスト外

**【形態】**

全長 38cm。雌雄ほぼ同色である。頭、背、翼、尾など上面は白と黒のまだら模様。頭上の冠羽は発達している。下面は白いが、雄は胸と喉の両側に黒と橙褐色の斑がある。

雌は顎線の一部と胸に橙褐色の斑がなく、下顎は橙褐色。嘴と足は灰黒色(五百沢ほか, 2004)。キャラ、キャラなどと鳴く。



豊田市西広瀬町, 2004年12月17日, 浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

急速に生息数が減少している。1990年代までは、乙川や青木川などの中流域でも数は少ないが生息しており、稀に繁殖も確認されていた。しかし、近年では上流域でもほとんど生息が確認されなくなり絶滅が危惧される。

**【県内の分布】**

平野部での確認記録は無くなり、上流部においても激減している(愛知県環境調査センター, 2009)。

**【国内の分布】**

周年九州以北に生息している。

**【世界の分布】**

アフガニスタン北東部からヒマラヤ・タイ北西部・ミャンマー・ベトナム中部・中国南部に分布している(五百沢ほか, 2004)。

**【生息地の環境／生態的特性】**

山間部の溪流・河川・湖沼・ダム湖などに広い縄張りをもち周年生息する(愛知県, 2009)。1羽か番で生活する。採食場所には一定の止まり木があり、そこから直接水中に飛び込んだり、空中で停空飛翔してから水中に頭から飛び込んで嘴で魚類をとらえて餌とする。川沿いや池沼などの周辺にある垂直に近い崖に横穴を掘って営巣する(叶内他, 1998)。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

本市においても、1990年代までは河川の中流域でもみることができたが、近年では上流域でもほとんど確認されなくなった。山間部の溪流や河川・池沼などの水質悪化による餌となる小魚類の減少、河川の護岸や道路沿いの崖がセメントなどによって補強され、営巣場所となる適当な崖が少ないのも、個体数の減少に影響しているものと思われる。

**【保全上の留意点】**

河川や池沼の水質悪化による魚の減少を防ぐとともに、オオクチバスやブルーギルなど外来種の捕食による小魚の減少に歯止めをかけることが必要である。そして、警戒心が強いため、安心して餌の魚を獲ることが出来る環境の保全・再生が望まれる。また、営巣可能な崖が守られ、新たに造られることが期待される。

これらのことが守られ実行されない時は、本種の市内での生息は、近々皆無になることが危惧される。

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.110. 文一総合出版, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, pp.394-395. 山と溪谷社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編, p.113. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 004	ハヤブサ目 ハヤブサ科	岡崎市 絶滅危惧ⅠA類
<b>ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i> Tunstall</b>		

**【選定理由】**

本市においては周年生息していると思われるが、個体数は極めて少ない。飛翔中の小鳥や河川・池沼に生息する水鳥などを襲って餌とするが、生息し、繁殖するためには、広範囲のテリトリーを必要とする。繁殖時の営巣場所は切り立った崖の岩棚を利用するが、適した営巣場所の確保が困難な状況でもある。そのため、今後、本市における繁殖が継続されるか危惧され、生息も危ぶまれる状況にある。

種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法）指定種である。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧ⅠB類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

全長は雄が38～45cm、雌が46～51cm。翼開長は84～120cmであり、雌の方がやや大きい。色は雄雌ほぼ同色である。成鳥は、上面は暗青灰色で頬に目立つひげ状の黒斑がある。下面は白く、黒褐色の横斑がある。幼鳥は上面が黒褐色、下面は淡褐色やバフ色で黒褐色の縦斑がある。

羽ばたきながら直線的に飛び、時々滑翔する。飛んでいるとき、翼は長く、先は尖って見える。

鳴き声はケーッ、ケーッ。クワッ、クワッなど（五百沢ほか、2004）。



西尾市一色町，2013年1月30日，浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

極めて少ない生息個体数であり、何とか1番が繁殖しているものと思われる。

**【県内の分布】**

海岸部を中心に生息するが、個体数は少なく、繁殖は極めて少ない。

**【国内の分布】**

九州以北で繁殖するほか、全国に冬鳥として渡来する。

**【世界の分布】**

南極圏と大洋上の島の大部分を除き、世界中に分布している。しかし、何種もの亜種に分類されている（森岡ほか、1995）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

平地から山地の海岸・河川・農耕地・池沼で、主に鳥を獲って餌としている。1羽か番で生活する。羽ばたいて直線的に飛び、ときどき滑翔もする。低空を飛んでいるものや地上や水面で休んでいるものを上空に飛び立たせて追いかけたり、飛翔中の群れを乱して1羽を追いかけて足でつかみとる（叶内ほか、1998）。営巣は主に海岸付近や丘陵地の崖です。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

県内における個体数は少ない。繁殖個体は数番程度と思われる（愛知県環境調査センター、2009）。

本市における生息個体数は極めて少ないが、桑谷山系で秋の渡りの観察中、成鳥・幼鳥が数羽一緒に飛翔するところが観察されることもある。また、矢作川周辺での狩りや水浴びも確認されるが稀である。本市においては、近年は1番のみが繁殖していると思われるが、市内には営巣場所である適当な崖は少なく、永続して営巣するか懸念され、繁殖個体の絶滅が危惧される。

**【保全上の留意点】**

営巣には卵や雛を狙う他の動物が近寄りにくい険しい崖が必要である。そのため、開発や採石工事などによる丘陵地の改変には配慮が望まれる。そして、本来の餌であるカモ類やシギ類・チドリ類・小鳥類の減少による本種個体数の減少が心配される。そのため、カモ類やシギ・チドリ類の棲める沿岸地域の海域や干潟、河川中・上流部の中州や池沼の保全も望まれる。

**【特記事項】**

近年は都市部のビルや鉄塔などを利用した繁殖記録もある。十数年前、本市においても市街地にあるビルの屋上の広告塔などに止まり、ドバトなどの狩りをする光景が、数年にわたって見られたことがあるが、繁殖は確認されなかった。

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2004．日本の鳥 550 山野の鳥，pp.56-57．文一総合出版，東京。  
 森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男，1995．図鑑 日本のワシタカ類，pp.184-194．文一総合出版，東京。  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，1998．日本の野鳥，pp.348-349．山と溪谷社，東京。  
 愛知県環境調査センター（編），2009．愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編，p.110。  
 愛知県環境部自然環境課，名古屋。

（執筆者 小嶋良武）

鳥類 005	ペリカン目 サギ科	岡崎市 絶滅危惧ⅠB類
<b>ミゾゴイ <i>Gorsachius gosisagi</i> (Temminck)</b>		

**【選定理由】**

夏鳥として、5月ごろに渡来して、里山の広葉樹の森に生息し繁殖する。ほとんど日本での繁殖のみであり、しかも個体数は少ない。利用されなくなり放置された里山の増加やスギやヒノキの植林による単一的な森林の増加（トヨタ自動車株式会社, 2012）による餌の昆虫類の減少、そして、丘陵地の工場や宅地の開発や道路の拡幅工事などによる環境変化に影響されやすく絶滅が危惧される。

ただ、夜間での行動が主であり、未だ生態の解明されていない部分もあり、今後の調査・研究が望まれる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧ⅠB類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

全長 49cm、翼開長 87cm。中型のサギ類。上面が赤褐色、下面は淡黄褐色で黒褐色の縦斑がある。頭上は暗褐色で、後頭に短い冠羽がある。翼を広げると風切は黒く、先端は赤褐色。黒くてサギ類としては短めの嘴である（桐原他, 2000）。

幼鳥は顔や翼に黒いまだら模様がある（トヨタ自動車株式会社, 2012）。



豊田市蕪木町, 2009年7月11日, 戸塚 学 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

夏期に丘陵地や低山の広葉樹の林などに生息する。沢や水田周辺・草地などで採餌するが、適した環境は限られており、生息個体数は極めて少ない。

**【県内の分布】**

丘陵地から山間部の森林域に生息し繁殖しているが個体数は少ない。

**【国内の分布】**

夏期に関東以南の本州・四国・九州・伊豆諸島に渡来し繁殖する。

**【世界の分布】**

台湾・中国南部・フィリピンなどで越冬する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

主に里山のうす暗いよく茂った広葉樹の森林域に生息し繁殖している。沢や水田・林道などでミミズ・サワガニ・カタツムリや昆虫など（トヨタ自動車株式会社, 2012）を獲って餌とする。春に渡来してから夜間に活動することが多いが、餌獲りなど昼間にも活動する。危険を感じると首を真っすぐ上に伸ばして静止し、体を木の枝に見せかける疑態をする。繁殖期の夜間に、雄は繁殖の縄張りの内またはその周辺の高い木などの頂きにとまって鳴く。ゆっくりしたテンポで、低く太いポォー、ポォーという声で10回前後繰り返して鳴く（叶内ほか, 1998）。

渡りの季節には都市部の公園などでも確認記録がある（愛知県環境調査センター, 2009）。しかし、未だ生態は不明な点が多いものと思われる。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

本種は丘陵地や低山のよく茂った森林と田畑に囲まれた里山に生息し営巣しているが、近年はそのような生息に適した生物多様性ある環境が減少し、生息個体数が減少しているものと思われる。

丘陵地や山間部の工場や住宅地などの開発や道路網の整備が進むとともに、利用されなくなり放置された里山が増え、生物の多様性豊かな里山が減少している。さらに、拡大された植林によるスギ・ヒノキ林の手入れが不十分なため、ミミズやサワガニ・昆虫など、餌となる小動物の減少に影響していることが考えられる。

**【保全上の留意点】**

丘陵地や山間部の開発や道路建設による大規模な改変事業は、本種に対する直接的な外圧となっているとともに、餌となる昆虫や魚など多くの生きものに影響を及ぼしており、自然環境の保全・配慮が必要である。

さらに、失われつつある豊かな里山の保全・再生や針葉樹の植林域の手入れがなされるとともに生物多様性のある豊かな広葉樹林域に再生されることが望まれる。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.74. 文一総合出版社, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.180. 山と溪谷社, 東京.  
 トヨタ自動車株式会社, 2012. ひっそりくらす里山の忍者 ミゾゴイ, pp.3-17. トヨタ自動車株式会社, 愛知.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.106.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 006	ツル目 クイナ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
<b>ヒクイナ <i>Porzana fusca</i> (Linnaeus)</b>		

**【選定理由】**

夏鳥として、5月ごろ渡来し、水田・湿地・河川・ため池など水辺に生息し繁殖するが、越冬するものもいる。

近年水田の耕地整理・乾田化や休耕田の整備、水路の形状変化、湿地の埋め立て、河川中州の除去、ため池の整備・公園化により、生息環境が極めて狭められ、絶滅の可能性が増大している。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧 II類
環境省	準絶滅危惧

**【形態】**

全長 21~23cm、翼開長 37cm。小型のクイナ類で、頭頂から顔面、腹部が赤褐色で下腹部から下尾筒は黒色と白色の横斑になっている。体上面は一様に暗緑褐色で、嘴は黒く脚と目は鮮やかな赤色である。幼鳥は羽全体が淡色で喉から腹にかけては白っぽい（桐原ほか, 2000）。



岡崎市東明大寺町, 2008年2月8日, 浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

夏期、矢作川や乙川の中州・河川敷や水田・ため池のヨシ原や草地に生息するが個体数は少ない。一部越冬するものもいる。

**【県内の分布】**

主に夏期平野部で生息する。丘陵地や山間部でも記録がある（愛知県環境調査センター, 2009）。稀に越冬する。

**【国内の分布】**

2亜種が分布し、亜種ヒクイナは主に夏鳥として北海道から九州に渡来する。本州中部以南では越冬するものもいる。亜種リュウキュウヒクイナは南西諸島で周年生息する（真木・大西, 2000）。

**【世界の分布】**

インドから東南アジア・中国・朝鮮半島にかけて分布する。北に分布するものは冬期に南下する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

河川・休耕田・ため池・湿地のヨシ原・草地に生息し、警戒しながら出現し、物音や上空を飛ぶものに対してさっと物陰に隠れる。5月から9月に繁殖し、イネ科などの株の中で営巣する。魚類・昆虫類・甲殻類のほか水生植物の若葉やイネ科・タデ科の種子も食べる。繁殖期には早朝や夜間に「キョッ、キョッ、キョッ・・・」と、初めはゆっくりしたテンポで鳴き続け、次第に速くなり突然けたたましく鳴いて一鳴きが終わる。「ケレケレレ」とカイツブリに似た声を出すこともある。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

数少なくなった休耕田や河川敷・ため池・湿地のヨシ原や草地に僅かに生息し、少数は繁殖している。冬期は水入り田や休耕田がほとんどないため水路や山麓の湿地にすることがある。

河川の洪水対策のための改修や中州の除去、運動施設や散策路の建設のためヨシ原や草地が消失することや、ため池の整備や公園化によって生息できる環境が減少している。更に、水田の耕地整理、水路の整備、稲作方法の変化、稲麦大豆の循環作付けにより水田や水路に水のない期間が長期化することによっても生息できる環境が極めて狭められている。

**【保全上の留意点】**

河川周辺やため池、洪水対策用遊水池のヨシやガマの群生地を減少させないことが必要である。加えて河川域やため池周辺、遊水池をヨシやガマの群生地として再生し、多様な生物が棲める場所として整備することが望まれる。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.170. 文一総合出版社, 東京.  
 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.203. 平凡社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編-, p.124.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.207. 山と溪谷社, 東京.  
 金井裕・叶内拓哉, 2007. BIRDER 2007年9月号, p.34. 文一総合出版, 東京.  
 BIRDER編集部, 1999. BIRDER 1999年8月号, p.21. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 007	ヨタカ目 ヨタカ科	岡崎市 絶滅危惧ⅠB類
<b>ヨタカ <i>Caprimulgus indicus</i> Latham</b>		

**【選定理由】**

夏鳥として渡来し、丘陵地から山間部に生息し繁殖する。昼は休息し夕暮れから夜明け前まで活動する。

近年は丘陵地から山間部の工場や住宅地の開発、道路の整備・建設などにより、本種の生息場所が減少している。そして、植林によるスギ・ヒノキの針葉樹の単一的な森が増え、しかも植林域の管理が放置される傾向にある。そのため餌となる昆虫類が減少している。さらに、里山の活用が衰退し、繰り返されてきた雑木林の伐開や利用がされなくなり、開けた空間を利用し地上に直接産卵し営巣する本種にとっては、繁殖機会が減り、個体数が減少している。

近年は山間部においても稀に確認できるだけであり、さらに減少することが危惧される。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

**【形態】**

全長 29cm。体は褐色で、黒褐色・灰褐色・赤褐色などの細かい複雑な斑がある。翼は長く、雄は外側初列風切先端付近に白斑がある。外側尾羽 3~4 対には先端付近に白斑がある。顎線は白い。雌は顎線・喉・初列風切の白斑は褐色味かかり、外側尾羽の白斑はない。目は大きく、虹彩は暗褐色。嘴は幅があって短い。

繁殖期の夜間に雄はキョキョキョ・・・と連続して長く鳴く（五百沢ほか, 2004）。



豊田市蕪木町, 2012年7月22日, 小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

丘陵地から山間部に生息し、繁殖するが個体数は極めて少ない。

**【県内の分布】**

主に東北部の丘陵地から山間部に生息・繁殖するが、個体数は極めて少ない。

**【国内の分布】**

九州以北に夏鳥として渡来し、生息し繁殖する。

**【世界の分布】**

インド・ネパール・東南アジア・ロシア極東南部・朝鮮半島・中国南部・マレーシアに分布し、北方のものは冬期に南方へ渡る（五百沢ほか, 2004）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

平地から山間部の林に生息し、日中は木の横枝に沿って腹を密着されるように止まって休息する。夕暮れから活動し、口を開いて羽音を立てずに飛びまわり、口の中に入った甲虫やガなど昆虫類を食べる。林内の少し開けたところにある裸地の地面に直接産卵する（叶内ほか, 1998）。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

夜間活動するため、目視による個体数の確認は困難である。キョキョキョと連続して鳴く特徴ある鳴き声で確認できるが個体数は極めて少ない。渡り鳥である本種は、まれに渡り途中で林縁部や都市部の公園で枝に止まって休息しているところも確認されることもある。

植林による針葉樹林の増加と管理不足の現状や長年営まれてきた里山の変化により、餌となる昆虫類の生息環境の攪乱が、本種の生息場所の減少に影響しているものと思われる。そして、丘陵地における住宅地の開発や工場の建設、網の目状に広がるコンクリート道路網の整備なども生息域を奪っているものと考えられる。

**【保全上の留意点】**

平野部から丘陵地にかけての雑木林の保全・整備や山林の管理・整備が継続してなされる必要がある。また、夜行性である本種は道路や住宅・工場などによる照明など人工光によって活動が影響されるため、これらにも対応することが望まれる（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.99. 文一総合出版, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.390. 山と溪谷社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.135.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 008	チドリ目 タマシギ科	岡崎市 絶滅危惧ⅠB類
<b>タマシギ <i>Rostratula benghalensis</i> (Linnaeus)</b>		

**【選定理由】**

平野部の淡水湿地に生息し繁殖するが数は少なく、多くは夏鳥で少数が越冬する。都市化の進展、水田の縮小や乾燥化、農道の整備、稲作方法の変化、稲麦大豆の循環作付けにより水田や水路に水のない期間が長期化することによって生息に適した環境が少なくなり、絶滅の可能性が増大している。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

全長 23～28 cm、翼開長 50～55cm。成鳥雄は頭部から上面は褐色で、頭中央線と肩から背にかけての線が黄褐色で、肩から胸にかけては太い白線がある。目の周りには勾玉型の黄褐色のアイリングがある。成鳥雌はアイリングが白色で、顔から上胸が赤褐色で下胸は黒褐色、体上面は暗緑褐色、体下面は白色で、雄に比べて色彩が派手である。雄雌共に淡紅色の長い嘴は先端で下方に少し曲がる。脚は緑黄色（桐原ほか, 2000）。



岡崎市針崎町, 2012年6月7日, 小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

休耕田や湿地・河川などの淡水湿地に少数生息し繁殖するが、個体数は少ない。

**【県内の分布】**

平野部の淡水湿地に周年生息し繁殖する（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【国内の分布】**

本州中部以南で繁殖。留鳥だが冬期は南へ移動するものもいる。北海道、宮城県、山形県などで繁殖記録がある（真木・大西, 2000）。

**【世界の分布】**

インドから東南アジア・中国、アフリカからオーストラリアに分布（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

休耕田や湿地などの背のあまり高くない草のある淡水湿地に生息し、草陰に隠れていることが多い。4月から10月頃に湿地の畦などの地上で営巣する。繁殖は一妻多夫で、雌は交尾産卵すると抱卵はせず別の雄と交尾して、抱卵から育雛は雄が行う。非繁殖期には数羽の群れを作り休耕田などの湿地で生息する。朝夕に採餌することが多く、水生の甲殻類・貝類・昆虫類・ミミズ類の他、植物性のものも餌とする。

繁殖期には雌が夜間に「コオーツ、コオーツ」と10回以上ゆっくりしたテンポで続けて鳴く。非繁殖期にはほとんど鳴かない。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

かつては、年間水の入った水田が数多くあり、稀ではなく見られたが、現在の稲作は水が入る期間が短くなったため、市内では姿を見ることが難しいほど減少した。非繁殖期の群れを見ることは皆無になった。秋・冬期には水入り田がほとんどないので刈田の水溜りや水路にすることがある。以前休耕田が各所にあったので、そこが絶好の生息地であったが、近年休耕田はほとんどなくなったのも本種にとって減少の要因となっている。水田、湿地に依存する本種は、水田の減少、水田への給水方法の変化、水路の整備、米麦大豆の作付けによる乾燥化などに伴い生息に適した環境が極めて少なくなり、絶滅の可能性が増大している。

**【保全上の留意点】**

水田、湿地を保全し、自然回復に努める必要がある。河川に水生植物などが生育する浅瀬を造り、洪水対策で造った遊水池にヨシやガマを繁殖し、水入り水田の周年維持など生息できる環境を再生する必要がある。

**【引用文献】**

- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.179. 文一総合出版社, 東京.
- 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.210. 平凡社, 東京.
- 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.125. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.302. 山と溪谷社, 東京.

(執筆者 浅井 光)



鳥類 009	タカ目 タカ科	岡崎市 絶滅危惧ⅠB類
<b>サシバ <i>Butastur indicus</i> (Gmelin)</b>		

**【選定理由】**

夏鳥として、主に4月ごろ渡来し、平地から山地の林・水田・草地などに生息し、繁殖するが個体数は少ない。近年、住宅地・工場などの開発による自然環境の変化や里山・森林の生活環境変化により、採餌場所や営巣場所の減少の影響を受けて生息個体数は減少傾向にある。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

全長は47～51cm、翼開長は105～115cmで雄よりも雌はやや大きい。雌雄ほぼ同色。成鳥雄は後頸からの上面と胸は茶褐色。腹は白く茶褐色の横斑がある。喉は白く、中央に黒褐色の縦線が1本あり目は黄色。成鳥雌は一般に白い眉斑が明瞭で、頬の灰色部の範囲は狭い。腹の茶褐色部には淡褐色の斑が目立つ。幼鳥は上面がやや暗色で、胸・腹に茶褐色の縦斑がある。目は暗褐色（森岡ほか、1995）。飛行時、翼は細長く先が尖ってみえる。



岡崎市箱柳町，2012年7月4日，小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

夏期に丘陵地から山間部の林や水田のある里山に生息し繁殖するが、個体数は少ない。秋の渡りの時期には、主に桑谷山系を多数通過して越冬地の東南アジアへ渡って行くのが観察される。

**【県内の分布】**

夏期に丘陵地から山間部に生息し、繁殖する。秋の渡りの時期には、主に伊良湖岬を多数通過する。

**【国内の分布】**

本州・四国・九州に夏鳥として渡来する。南西諸島では越冬する個体もある。

**【世界の分布】**

ロシア沿海地方・中国南部・朝鮮半島で繁殖し、中国南部・東南アジアで越冬する（五百沢ほか、2004）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

3月下旬から5月にかけて渡来し繁殖する。そして、9月から10月にかけて越冬地に向かって渡去する。丘陵地や山間部のいわゆる里山を中心に生息し、林縁部の林道・伐開地や水田など農耕地の開けたところで採餌する。餌はカエル・ヘビ・トカゲなど爬虫類や両生類を好み、ムカデやカマキリなど昆虫、鳥のヒナやネズミなども捕食する。営巣場所や時期によって餌の種類の違いがあるものと思われる。アカマツや落葉広葉樹の混じった雑木林や落葉広葉樹と針葉樹の混交林の中の樹上に巣を作り繁殖する。

渡りの時期には群になる性質があり、ことに秋の渡りはより大きな群れを形成し渡去するものもある。主に繁殖期にはピックイーあるいはキンミーと聞こえる鳴声をする（森岡ほか、1995）。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

近年、雑木林や水田・農耕地を含む生物豊かな里山は、雑木林が利用されなくなり、水田の乾田化や耕作放棄地の増加などもあり衰退傾向をたどっている。さらに、丘陵地などで展開されている道路建設や開発による影響を受け、カエル・ヘビ・トカゲや昆虫類の餌や狩り場が減少し、環境変化への対応力が乏しい本種は、生息個体数の減少傾向にある。

加えて、減少傾向は中国南部や東南アジアなど越冬地の自然環境の悪化による影響もうけているものと思われる。

**【保全上の留意点】**

開発や道路の建設・拡幅などによる自然環境破壊への配慮が必要である。後継者不足などによる里山の衰退や手入れの行き届かない森林の放置など問題点は多い（愛知県環境調査センター、2009）。これらの自然環境が、生物多様性ある豊かな環境として保全・再生されることが望まれる。

**【引用文献】**

森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男，1995. 図鑑 日本のワシタカ類，pp.172-182. 文一総合出版，東京。  
 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2004. 日本の鳥 550 山野の鳥，pp.172-182. 文一総合出版，東京。  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，1998. 日本の野鳥，pp.330-331. 山と溪谷社，東京。  
 愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編，p.122. 愛知県環境部自然環境課，名古屋。

（執筆者 小嶋良武）

鳥類 010	フクロウ目 フクロウ科	岡崎市 絶滅危惧 I B類
<b>アオバズク <i>Ninox scutulata</i> (Raffles)</b>		

**【選定理由】**

夏鳥として渡来して、山麓の林・寺社や都市公園の林に生息し、樹洞や建物などの穴で繁殖するが、個体数は少ない。繁殖できる樹洞等は限られていて、しかも樹洞を持つような大木は増えることはなく減少している。近年、人工物での繁殖が確認されたが、継続した繁殖は確認されていない。餌となる昆虫類が林業や農業政策の変化や人工光の増強により減少し、山麓部での生息や繁殖も難しくしている。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【形態】**

全長 29cm、翼開長 66～70cm。中型のフクロウ。羽角のない丸い頭と黒っぽい顔のため頭巾をかぶったように見える。頭部から尾まで上面は黒褐色で、下面は白地に黒褐色の極めて太い縦斑がある。嘴は黒く、虹彩と足は黄色。眼を開いているとよく目立つ。雌雄の差は明瞭でないが、雄の方は翼が若干長く、下面の縦斑が太くて濃い傾向がある（五百沢ほか, 2000）。



岡崎市康生町, 2009年7月9日, 浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

山麓の林、社寺や都市公園などの林で生息し、樹洞や建物などの人工物の穴で繁殖するが個体数は少ない。

**【県内の分布】**

夏期に平野部から丘陵地および山間部の林に生息し、繁殖するが、近年減少している（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【国内の分布】**

ほぼ全国に分布し、九州以北では夏鳥として渡来する。南西諸島では留鳥。

**【世界の分布】**

インド・ヒマラヤ・東南アジア・中国東部・朝鮮半島・ウスリーに分布する。北方のものは冬期に南下する（五百沢ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

繁殖期には夕方に雌雄が鳴き合い行動を始める。羽音を立てずに飛び回り、主にガ類・甲虫類などの夜行性昆虫類を、時に小鳥やコウモリなども捕る。丘陵地などにある街灯には、光に集まる昆虫類が集まるので狩場になることがある。繁殖期の夜間ゆっくりと「ホーホー、ホーホー」と繰り返し鳴く。抱卵は雌が行い、雄は巣の近くで見張りをする。雛が大きくなると雌または雄雌で見張りをする。雛は巣立った後もしばらくの間巣の周辺の木に親鳥と一緒にとまっていることがある。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

生息し繁殖する場所は極めて限られている。主として樹洞で繁殖するが、樹洞のあるような大木が少なくなっているため、繁殖が益々困難になっている。

道路照明など強い人工光により夜間の活動が制限され、餌となる昆虫類の生息環境の乱れにより生息が難しくなっている。都市部ではカラスによる繁殖妨害の他に写真撮影者の執拗な干渉も繁殖の大きな障害になっていると考えられる。

**【保全上の留意点】**

寺社や都市公園などの大木のある林を保全する必要がある。大木はとかく伐採の対象になるが、大木こそ保護しなければならない。新規に植樹をする場合は、ソメイヨシノのような短命な樹種は少なくし、長寿な樹種を選択し、落葉樹、常緑樹を混交する必要がある。夜間の強い照明は餌となる昆虫類に影響を与え、生息、繁殖に影響を及ぼすので制限すべきである。

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.87. 文一総合出版, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.166.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, pp.356-357. 山と溪谷社, 東京.  
 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.372. 平凡社, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 011	スズメ目 カワガラス科	岡崎市 絶滅危惧ⅠB類
<b>カワガラス <i>Cinclus pallasii</i> Temminck</b>		

**【選定理由】**

山間部の溪流や上流から中流の河川に周年生息し繁殖する。しかし、近年、河川の改修や開発による河川周辺の自然環境の変化や水質悪化の影響により、急速に個体数が減少している。1990年代までは乙川や青木川の中流域でも、ある程度の個体数が生息していたが、近年では上流においても確認は稀となった。今後さらに個体数の減少が危惧される。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

**【形態】**

全長 21～23cm。雌雄同色。成鳥はほぼ全身黒褐色のずんぐりした体。尾はやや短めで足は黒褐色で前面は銀灰色。

幼鳥の翼は黒褐色だが、全体には淡い茶色で、背には黒褐色の羽縁があり、雨覆、風切、尾羽には白い羽縁がある。腹にも白い羽縁があり、鱗模様に見える。

サエズリはチチージョイジョイ。地鳴きはピッ、ピッ（桐原ほか, 2000）。



岡崎市日影町, 2013年1月20日, 小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

1990年代までは乙川や青木川の中流域でも生息していたが、急速に個体数は減り、近年、上流でも稀となった。

**【県内の分布】**

丘陵地から山間部にかけての河川に周年生息するが、個体数は少ない。

**【国内の分布】**

留鳥として屋久島以北の上流から中流の河川、山間部の溪流、沢などに生息し、繁殖する。

**【世界の分布】**

アフガニスタン・トルキスタンからヒマラヤ・インドシナ北部・中国・台湾・朝鮮半島・サハラ・カムチャッカに生息する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

河川の中流から上流域にかけての石や岩の多い溪流に生息する。繁殖期以外は1羽で生活するものが多い。一定の範囲内をピッ、ピッと鳴きながら、水面上の低いところを直線的に飛ぶ。移動しながら、水中に潜ったり水底を歩いたりし、水生昆虫や小魚を捕食する。尾羽をよく上下に動かしたり、翼をパッパッと半開きにしながら、流木や石の上で休息する。休息中によくまばたきをし、白い脛がよく目立つ（叶内ほか, 1998）。

溪流の崖の岩の隙間、滝の裏、倒木の陰などにコケを使って球形の巣を作る（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

県内全域においても減少している（愛知県環境調査センター, 2009）が、市内における生息個体数は急速に減少している。近年、乙川や青木川などの上流部においても確認は稀となった。

河川改修や道路網の拡充、工場や住宅地などの開発による環境変化とともに、森林の手入れ不足による水質の悪化などにより、餌となる水生昆虫や小魚などの生息に影響し、生息数が減少しているものと考えられる。そして、繁殖に適した営巣場所が減っていることも、本種の急速な減少に影響しているものと考えられる。

**【保全上の留意点】**

丘陵地から山間部の森や河川の自然環境が守られることが必要である。自然環境に配慮ある河川の整備・補修がなされることも重要ではあるが、同時に多様な生物が生息する河川が保全され、また再生されることが望まれる。そのためには、むやみな道路網の拡大や自然環境に無配慮な工場や住宅地の開発は慎むことが重要である。多様な生物が生息できる森や河川が、行政・業者・地域住民によって保全され、さらに、再生されることが望まれる。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.170. 文一総合出版社, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.460. 山と溪谷社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.137.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 012	カモ目 カモ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>トモエガモ <i>Anas formosa</i> Georgi</b>		

**【選定理由】**

冬期に河川や内陸のため池に生息するが、個体数は少ない。警戒心が強く、周囲から隔離された環境のため池が生息に必要である。

丘陵地のため池で少数越冬する個体がいるが、越冬するため池も周辺環境変化により、越冬する個体がいなくなる可能性がある。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

全長 39~43cm、翼開長 65~75cm。中型のカモ類。雄成鳥の顔には特徴的な黄白色と緑色と黒色の巴のような模様がある。嘴基部より眉斑状に頭部後方まで伸びた白線がある。白線は後頭部で交差している。胸は赤紫褐色で黒点状の斑があり、胸の側面には白線がある。脇は青灰色。背の上面は褐色で、肩羽の数枚は長く、蓑状に垂れ下がる。下尾筒は黒く、白い横線がある。

雌は全体に褐色で、過眼線と眉斑が眼から後ろにある。頬は白っぽく、嘴基部には特徴的な白斑がある。肩羽は他のカモ類の雌より長い。雌雄ともに嘴は黒い（桐原ほか, 2000）。



岡崎市若松町, 2013年1月27日, 小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

冬期の初期または終期に河川・ため池に一時的に見られることがある。限定的なため池では越冬するものがある。

**【県内の分布】**

かつて数千から 1 万羽の群が見られたが近年このような大群は見られない。冬期に河川や池沼に少数が生息する（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【国内の分布】**

冬鳥として全国に記録されているが、本州以南の日本海側に多く、太平洋側では少ない（桐原ほか, 2000）。

**【世界の分布】**

シベリア東部で繁殖し、中国東部・朝鮮半島で越冬する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

一時的には身近な河川・池沼・湿地に飛来するが、警戒心が強いいため越冬するのは丘陵地、山地の周囲が隔離された池沼が多い。山間部の河川・池沼ではオシドリの群れの中にあることがある。主に植物食で、ドングリやイネ科植物を食べる。警戒心が強いいため侵入者などによる影響を受けやすく、個体数の確認も難しい。「コココ」または「クククッ」と鳴く。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

以前、庄内川河口や木曾川下流で数百羽の群れが観察されたが、近年、県内ではこのような大きな群れは見られなくなった（愛知県環境調査センター, 2009）。市内での観察数は以前から少数であったが、初冬に公園のため池や河川の中州などに他のカモ類の群れの中にあることがあるが、開けた場所に長居することは少ない。越冬は遮閉された丘陵地のため池で他のカモ類に混ざっていることが多い。警戒心が強いいため越冬場所でも安定した生息が難しく、ちょっとした環境変化で生息場所を変える。

**【保全上の留意点】**

越冬するため池は周辺から隔離された環境であり、侵入者があると混乱して飛び立つことが多い。安定して越冬するには、このような環境を静かに保全することが必要である。無用に見える山間部、丘陵地のため池も野生生物にとって重要なことが多いのでむやみな開発、造成を慎むべきである。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.119. 文一総合出版社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.118.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, pp.56-57. 山と溪谷社, 東京.  
 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.104. 平凡社, 東京.  
 愛知県・愛知県野鳥保護連絡協議会, 2006. 愛知の野鳥, p.25. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 013	ツル目 クイナ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>クイナ <i>Rallus aquaticus</i> Linnaeus</b>		

**【選定理由】**

冬期に水田・湿地・河川・ため池などの淡水湿地に渡来し、よく茂った草地やヨシ原に生息する。近年水田の耕地整理、乾田化、休耕田の整備、水路の整備、湿地の埋め立て、河川中州の除去、ため池の公園化や整備により、このような生息環境が極めて狭められ、絶滅の可能性が増大している。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【形態】**

全長 28～29cm、翼開長 38～45cm。頭部から体上面にかけては茶褐色で不規則な黒色の縦斑がある。黒色の過眼線があり、顔、喉、胸は青灰色で、腹、脇には白色と黒色の縞模様がある。長い嘴は冬季には下嘴が赤く、上嘴は黒い。脚は淡い紅色（桐原ほか, 2000）。



名古屋市緑区, 2008年1月4日, 小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

冬期に矢作川、乙川の中州や河川敷・水田・ため池のヨシ原や草地に生息するが個体数は少ない。夏期の観察例も稀にある。

**【県内の分布】**

冬期に平地から低山の休耕田や湿地、河川や池沼の畔、水田などに単独または数羽で生息する（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【国内の分布】**

北海道と本州北部で夏鳥として繁殖し、本州・四国・九州・南西諸島では冬鳥（桐原ほか, 2000）。

**【世界の分布】**

ユーラシア大陸の温帯域で繁殖。北方のものは冬期に南下する。中国南部・東南アジアでは冬鳥（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

冬期に河川・休耕田・ため池・湿地などのよく茂った草地やヨシ原で生息する。警戒心が強く、ちょっとした物音、影や上空を飛ぶものに対してさっと物陰に潜ってしまい、開けた場所にはなかなか出てこない。昆虫類・甲殻類・軟体動物・魚類などのほか植物の種子も食べる。「キュッ」と短く鳴くがそれほど頻繁ではない。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

数少なくなった休耕田や河川敷・ため池・湿地のヨシ原・草地に僅かに生息している。水入り田や休耕田がほとんどなくなったため僅かな水路や小川にすることがある。

河川の洪水対策のための改修や中州の除去、運動施設や散策路の設置が進みヨシ原、草地の除去、ため池の整備や公園化により生息できる環境がなくなっている。更に、水田の耕地整理、水路の整備、稲作方法の変化、稲麦大豆の循環作付けにより水田や水路に水のない期間が長期化したことにより生息できる環境が極めて狭められている。

**【保全上の留意点】**

河川周辺やため池、遊水池のヨシやガマの群生地を減少させないことが必要である。更に、河川中州や岸边、洪水対策用の遊水池やため池周辺をヨシやガマの群生地として再生し、多様な生物が棲める場所として整備することが望まれる。

**【特記事項】**

愛知県内での繁殖記録及び繁殖期の観察記録が各 1 例ある（愛知県環境調査センター, 2009）。市内での繁殖期の観察記録も 1 例ある。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.165. 文一総合出版社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.149.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.204. 山と溪谷社, 東京.  
 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.199. 平凡社, 東京.  
 愛知県・愛知県野鳥保護連絡協議会, 2006. 愛知の野鳥, p.45. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 BIRDER 編集部, 1999. BIRDER 1999年8月号, p.16. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 014	ツル目 クイナ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>バン <i>Gallinula chloropus</i> (Linnaeus)</b>		

**【選定理由】**

以前は水田・湿地・河川・ため池など水辺に生息し、少数繁殖していたが、近年これらの環境の悪化により大幅に減少し、絶滅の可能性が増大している。

水田の耕地整理、麦大豆への転作による乾田化、休耕田の整備、水路の形状変化、湿地の埋め立て、河川中州の除去、ため池の公園化や整備により生息環境が極めて狭められている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【形態】**

全長 30～38cm、翼開長 50～55cm。全体に黒色だが背から上面は褐色で脇には目立つ白い縦斑がある。下尾筒のほとんどは黒色だが、両脇に三角形の白い斑がある。額板と嘴は赤く、両嘴の先は黄色い。脚は緑黄色で脛の上部は赤く、足指は長い。冬羽では嘴の赤色はほとんどなくなる。幼鳥は成鳥に比べて全体に淡色で額板はなく、嘴も肉色。水かきはないが上手く泳ぐことができる（桐原ほか, 2000）。



岡崎市大西町, 2009年2月12日, 浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

矢作川や乙川の中州・河川敷・水田・池沼・湿地のヨシ原や草地に生息するが個体数は減少している。

**【県内の分布】**

平野部の水田、池沼などで普通に繁殖していたが、水田の麦や大豆への転作による乾燥化で生育場所や餌が少なくなったため減少している（愛知県ほか, 2006）。

**【国内の分布】**

北海道から南西諸島で繁殖し、関東以北では夏鳥、それ以南では留鳥（桐原ほか, 2000）。

**【世界の分布】**

ユーラシア・アフリカ・北アメリカ・南アメリカそれぞれの温帯から熱帯域にかけて分布する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

河川・休耕田・池沼・湿地のヨシ原・草地に生息し、クイナほどではないが、警戒心が強く、物音や影が動くだけで草むらなどに逃げ込む。公園などに生息しているものは警戒心の少ないものもいる。5月から9月に繁殖し、イネ科などの株の中で営巣する。水際や水草の上を歩き回って動物質、植物質のものを食べる。普段あまり鳴かないが、繁殖期には「キュル」、「クルルッ」と鳴く。渡りの時期や夏の夜間、「ケッケケケ」と鳴きながら飛ぶことがある。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

数少なくなった休耕田や河川敷・ため池・湿地のヨシ原・草地に僅かに生息し、繁殖している可能性がある。冬期には水入り田や休耕田がほとんどないため、水路や河川の中州、草地に生息する。

河川の洪水対策のための改修、中州の除去、運動施設や散策路の建設、ヨシ原や草地の除去、ため池の整備や公園化により生息できる環境がなくなっている。更に、水田の耕地整理、水路の整備、稲作方法の変化、稲麦大豆の循環作付けにより水田や水路に水のない時期が長期化したことにより生息できる環境が極めて狭められている。

**【保全上の留意点】**

河川周辺やため池、遊水池のヨシやガマの群生地を減少させないことが必要である。更に、河川域やため池周辺をヨシやガマの群生地として再生し、多様な生物が棲める場所として整備することが望まれる。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.175. 文一総合出版社, 東京.  
愛知県・愛知県野鳥保護連絡協議会, 2006. 愛知の野鳥, p.46. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.211. 山と溪谷社, 東京.  
真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.205. 平凡社, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 015	チドリ目 チドリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>イカルチドリ <i>Charadrius placidus</i> Gray et Gray</b>		

**【選定理由】**

主に河川中流域の河川敷、中州の砂地や砂礫地に生息し、繁殖するが近年減少傾向にある。

洪水対策のために中州砂礫の除去、堤防強化のため護岸補強、堤防道路や河川敷遊歩道の拡幅、公園化等により砂地や砂礫地が極めて少なくなっている。更に河川敷への人の侵入が増加して生息や繁殖を困難にしている。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

**【形態】**

全長 19～21cm、翼開長 45cm。小型のチドリ類。額と眉斑は白く、前頭、過眼線、胸帯は黒色で、体上面は灰褐色、体下面は白色。細くて長めの嘴で、眼の周りには細い黄色のリングがあり、足は淡黄色で長め。冬羽は顔や胸の黒色及び黒褐色が淡くなる。飛行時には翼上面に細い白線が見える（桐原ほか, 2000）。



岡崎市上明大寺町, 2012年11月23日, 小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

矢作川や乙川の中州、河川敷の砂地や砂礫地で生息し繁殖するが個体数は少ない。

**【県内の分布】**

河川中流域の砂礫地に生息し繁殖する。冬期には河川下流域、平野部の水路、池沼の畔などでも見られる（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【国内の分布】**

九州以北では留鳥で、北海道では夏鳥として渡来し、奄美大島以南では少数越冬する。繁殖は本州と四国に限られる（桐原ほか, 2000）

**【世界の分布】**

ロシアウスリー地方・中国北部および東北部・朝鮮半島で繁殖。中国南部からインド北部で越冬する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

繁殖期には河川の中州や岸辺の砂礫地に縄張りを作って番で生息する。営巣は地上に小石を並べただけの簡単な巣で、保護色となり見つけが難しい。

冬期は河川下流域に移動するものもあるが、繁殖地と同様な場所や水の少なくなったため池の砂礫地で単独または集団でも生息する。

昆虫類やいろいろな小動物を食べる。繁殖期には「ピィピィピィ・・・」と鳴きながら求愛飛行を行い、「ピィオ、ピィオ」と1声または続けて鳴く。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

河川の中州除去、岸辺の護岸工事、河川敷の公園化により砂地や砂礫地が減少し、営巣できる環境が激減している。更に市内の河川では防災訓練や各種イベントなどのために水深を増すので、砂礫の中州が水没して繁殖を困難にしている。

冬期市内の河川中州では10羽以上の群を見ることができ、他の地域では見られない貴重な生息地としてなっている。

**【保全上の留意点】**

河川の多様な環境保全に努めなければならないが、本種にとっては中州や岸辺の砂礫地確保、再生が重要である。区域、時期を決めて営巣可能な河川の砂礫地中州への釣り人などの入場を制限する必要がある。市内の河川中州は優れた環境を保持されているので、これを悪化させないように保存する必要がある。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.183. 文一総合出版社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.126.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.225. 山と溪谷社, 東京.  
 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.214. 平凡社, 東京.  
 愛知県・愛知県野鳥保護連絡協議会, 2006. 愛知の野鳥, p.49. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.  
 金井裕・叶内拓哉, 2007. BIRDER 2007年9月号, p.34. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 016	チドリ目 チドリ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>シロチドリ <i>Charadrius alexandrinus</i> Linnaeus</b>		

**【選定理由】**

干潟・砂浜・河川の中下流域の河川敷や中州の砂地・砂礫地で普通に生息し、繁殖していたが、近年減少している。以前は市内の河川中州で繁殖していたが近年記録がない。冬期に少数市内で越冬するものもいる。

洪水対策のために中州砂礫の除去、堤防強化のため護岸補強、堤防道路や河川敷遊歩道の拡幅、公園化により砂地・砂礫地が極めて少なくなっている。更に河川敷への人の侵入が増加していて生息、繁殖を困難にしている。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

全長 15～17.5cm、翼開長 42～45cm。小型のチドリ類。額と眉斑は白く、眼先と頬が雄は黒く、雌は褐色。胸の黒斑は中央で切れている。後頸は白。夏羽の雄は前頭と側胸に黒斑があり、過眼線も黒く、頭頂と後頭部は橙褐色。体上面は灰褐色、体下面は白色。太く短い嘴で、足は黒色または黒味を帯びた肉色。翼を広げると上面に白い翼帯がある（桐原ほか, 2000）。



西尾市一色町, 2011年8月21日, 浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

矢作川、乙川の中州や河川敷の砂地・砂礫地で生息するが個体数は少ない。以前は少数繁殖していたが近年繁殖記録がない。

**【県内の分布】**

干潟や沿岸部では一年を通して生息し、平野部にある河川の中流域から下流域及び沿岸部で繁殖する（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【国内の分布】**

北海道から南西諸島まで留鳥として繁殖するが、北日本では夏鳥として冬期は暖地へ移動するものが多い（桐原ほか, 2000）。

**【世界の分布】**

北半球の温帯および南アメリカ西岸で繁殖し、北方のものは南に渡って越冬する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

主な繁殖地は河川の下流域や沿岸部の中州や岸辺の砂地・干拓地・埋立て地・砂礫の駐車場・空き地などであるが、中流域の同じような環境でも繁殖する。市内の河川でも以前は中州の砂地で繁殖したが、近年は記録がない。冬期に市内の河川中州で越冬する個体が少数いる。

甲殻類・ゴカイ類・貝類やいろいろな小動物を食べる。「ピュルピュル」と鳴き、繁殖期には「ピュルルルル」などより複雑な鳴き方をする。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

県内では繁殖地の砂地が護岸工事、埋立て工事で消失したため個体数の減少が顕著である（愛知県環境調査センター, 2009）。市内の河川でも中州除去、岸辺の護岸工事、河川敷の公園化により砂地や砂礫地が減少し、生息、営巣できる環境が激減している。更に防災訓練などのイベントのために水深を増すので、少ない砂礫の中州も水没してしまい生息環境を悪化させている。河川敷や中州への人の侵入も増加して、生息環境悪化につながっている。

**【保全上の留意点】**

河川の多様な環境保全に努めなければならないが、本種にとっては中州や岸辺の砂地や砂礫地の残っている部分を確保し、失われた部分は造成する必要がある。区域、時期を決めて営巣可能な河川の砂礫地中州への釣り人などの入場を制限する必要がある。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.184. 文一総合出版社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.150.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

**【関連文献】**

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.228. 山と溪谷社, 東京.  
 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.215. 平凡社, 東京.

(執筆者 浅井 光)



鳥類 017	チドリ目 シギ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>アオシギ <i>Gallinago solitaria</i> Hodgson</b>		

**【選定理由】**

冬期に、山間部や丘陵地の河川・溪流・三面コンクリートの水路などに生息するが数は少ない。人が立ち入らない環境を好むが、道路建設、耕地整理や各種開発により、適した環境は減少の一途である。またこうした河川、水路も道路建設や開発により土砂の流入による水質の悪化が減少の要因になっている。

ここ数年、以前生息した場所を調査した際、ほとんど確認できないため、絶滅の可能性が増大しているものと思われる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【形態】**

全長 29～31 cm、翼開長 51～56cm。ずんぐりした大型のシギ類。雌雄同色。生息する環境に紛れ込むような色調で体全体は褐色、黒褐色でまだらに見えるが、顔や体下面の白色部分はかすかに青灰色味を帯びている。肩羽に白帯があるが、翼には白帯はない。不明瞭な白い頭中央線、頭側線がある。長くてまっすぐな嘴は暗肉色。脚は緑黄色（桐原ほか、2000）。



豊田市蕪木町，2013年1月11日，小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

冬期に山間部の溪流・三面コンクリートの水路などの清流域に生息するが、近年ほとんど確認できなくなっている。

**【県内の分布】**

冬期に山間部や丘陵地の河川や水路、水田などに生息するが、生息数はごく少ない（愛知県環境調査センター，2009）。

**【国内の分布】**

冬鳥として北海道から沖縄まで記録があるが、本州中部以南では少ない。北海道のような寒冷地では温泉水の湧き出ている場所に数羽集まっている場合がある（叶内ほか，1998）。

**【世界の分布】**

シベリア東部および中部・ヒマラヤ北部・サハリンで繁殖し、中国南部・インド・パキスタン北部で越冬する（桐原ほか，2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

山間部・丘陵地の河川・溪流・水路、中でも三面コンクリートの水路などで、きれいな水の流れる水深のあまりない場所に単独で生息する。開けた場所に姿を見せることは少ない。人の気配を感じると、見つける前に飛ぶことが多く、生態を観察することが難しい。「ジェツ」と鳴いて重そうに飛び去る姿を見ることが多い。水中や泥の中に長い嘴を差し込んでいる姿を確認できるので、昆虫や水生昆虫類の幼虫や貝類を採食しているものと思われる。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

かつては、山地から丘陵部の農地と隣接した比較的浅い谷間の溪流、水路に少数ではあるが生息していた。このような場所で圃場整備、農道整備が進められ、更に基幹道路整備や高速道路建設、工業団地や住宅団地開発が推進され、環境悪化と頻繁な人の立ち入りにより生息数を著しく減少させている。このような開発のために溪流、水路の目に見えない水質の悪化により餌となる水生昆虫の幼虫、貝類など減少が生息数の減少に大きく影響していると考えられる。

**【保全上の留意点】**

里山の環境悪化の影響を受けやすい種であり、保全のために慎重かつ十分な配慮が必要である。道路建設・工業用地造成・圃場整備などの開発により、今まで生息していた環境が破壊され確認できなくなった地域が多い。新規の開発は見直し、既存道路の利用、既開発及び造成部の利用により現状の自然環境を保存する努力が必要である。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸，2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥，p.248. 文一総合出版社，東京。  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，1998. 日本の野鳥，p.269. 山と溪谷社，東京。  
 愛知県環境調査センター（編），2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編，p.162. 愛知県環境部自然環境課，名古屋。

（執筆者 浅井 光）

鳥類 018	チドリ目 カモメ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>コアジサシ <i>Sterna albifrons</i> Pallas</b>		

**【選定理由】**

夏鳥として渡来し、主に海岸や河川・湖沼付近に生息し繁殖するが、減少傾向にある。市内における渡来数は少なく、矢作川など河川やため池で採餌をし、矢作川の中州や周辺の埋立地などで少数が繁殖する。しかし、中州や埋立地は増水や人の立ち入り、整地など、不安定な環境であり、繁殖成功率は極めて小さい。  
『国際希少野生動物種』指定種。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【形態】**

全長 22～28cm。翼開長 47～55cm。雌雄同色。  
額は白く、頭頂から後頭と過眼線は黒い。体上面は青灰色。喉・側頸・体下面は白い。嘴は黄色く先端は黒い。足は橙黄色。腰と尾は白い。  
冬羽では額の白色部は頭頂まで広がり、嘴は黒く、足は褐色（遠目には黒く見える）。  
鳴き声はキリッ、キリッまたはキイツ、キイツなど（桐原ほか, 2000）。



西尾市一色町, 2013年7月5日, 浅井 光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**  
夏期に、個体数は少ないが主に矢作川周辺に飛来する。少数が営巣するが、繁殖成功の番は極めて少ない。  
**【県内の分布】**  
三河湾や伊勢湾の海岸域を中心に生息する。営巣場所は不安定な環境が多く、繁殖にも影響している。  
**【国内の分布】**  
夏鳥として本州以南に渡来し、繁殖する。  
**【世界の分布】**  
ヨーロッパ・ロシア西部・中東・インド・東アジア・東南アジア・オーストラリア・アフリカ・北アメリカ中部から南アメリカ北部で繁殖する。北方のものは南方に渡って越冬する（桐原ほか, 2000）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

夏期に渡来して、多くは海岸域で生息し、砂浜・埋立地などで繁殖する。群れで行動することが多く、砂地や礫地にコロニーを形成し営巣する。浅い窪みを作り、そこに貝殻など敷いて卵を産む。繁殖地に人や犬などが近付くと一斉に飛び立ち、急降下し威嚇する。市内では主に矢作川周辺に飛来し、少数ながら中州などの砂地に営巣するが、繁殖成功することはまれである。  
主に魚類を餌とする。水面上を羽ばたきはゆっくりだが速いスピードで飛び、停空飛行からダイビングをして採餌する（叶内ほか, 1998）。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

主なる営巣場所は海岸や河川の砂地や周辺の埋め立て地などであるため、高波などによる増水、堤防の建設や整備、埋め立て地の農地への転用や人工物の建設等々、種々の環境変化に左右され繁殖は不安定である。  
市内においては、矢作川の中州などで少数が営巣するが、川の増水や河川の整備、人や犬の立ち入りなどにより、繁殖は大変不安定である。

**【保全上の留意点】**

伊勢湾と三河湾は国内での重要な生息・繁殖地であるが、営巣場所の環境状況から、繁殖は不安定である（愛知県環境調査センター, 2009）。市内における生息個体数は少数であり、繁殖成功率はたいへん低い。矢作川は餌の小魚の採食に、また、中州や砂州は貴重な営巣場所となっている。安定した採餌や繁殖ができる環境造りが必要である。

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.307. 文一総合出版社, 東京.  
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.156. 山と溪谷社, 東京.  
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.163. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 019	タカ目 タカ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>ハチクマ <i>Pernis ptilorhynchus</i> (Temminch)</b>		

**【選定理由】**

夏鳥として、5月ごろ渡来し、丘陵地から山間部にかけて生息し繁殖するが、個体数は少ない。サシバなどに比べ繁殖時期における行動範囲は広いが、警戒心も強く、雛への餌運びは非常に慎重な行動がみられる。そのため、里山や山林などの開発や道路整備などの影響を受けやすいものと思われ、さらなる個体数の減少が心配される。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

**【形態】**

全長 57～61cm、翼開長 121～135cm。ハシブトガラスよりやや大きく、羽色は淡色型・中間型・暗色型など個体差が著しい。

雄は翼下面では風切に2～3本のやや太く黒っぽい帯があり、尾にも2本の太く黒っぽい帯がある。雄の虹彩は暗色または暗赤色。雌は翼下面の風切が雄より細く黒っぽい帯がある。虹彩は黄色。

幼鳥は飛翔時に、初列風切の先端部付近が広く黒く見える。成鳥、幼鳥ともに、飛翔時に頸が長いいため、翼前縁から頭頸が突き出したように見える（五百沢ほか, 2004）。



西尾市幡豆町, 2006年7月22日, 杉山時雄 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

夏期に渡来し、丘陵地から山間部の林に生息し繁殖するが個体数は少ない。

**【県内の分布】**

夏期に丘陵地から山間部の林に生息し繁殖するが個体数は少ない。

**【国内の分布】**

夏鳥として九州以北に渡来し、低山から山地に生息し、繁殖する。

**【世界の分布】**

ヨーロッパから小アジア・バイカル湖を経てロシア極東南部・中国東北部・インドから東南アジアで繁殖し、アフリカ・東南アジアで越冬する（五百沢ほか, 2004）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

5月上旬から下旬に渡来し、低山から山地の林に生息し、アカマツやヤマザクラ、ナラ類などの樹上に営巣し繁殖する。9月中旬から10月初旬にかけて越冬地である東南アジアへ渡去する。春、サシバと比べ約1ヶ月遅く渡来するが、ヒナの餌は栄養価の高いハチ類の幼虫が多く育ちが早いため、サシバとほぼ同じ時期に旅立つ（森岡ほか, 1995）。

飛翔力は強く、繁殖時期の行動範囲は広く、春、秋の渡りも非常に長距離を移動する。近年、人工衛星を利用し、発信器を装着し放鳥する追跡調査により、東南アジアの国々を何ヶ国も経由する渡りのコースが分かりつつある。また、秋の渡りで長崎から東シナ海の海上を直接横断し、中国南部まで一気に長距離を飛翔することなども解明されつつある。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

市内においては、民家に近い里山から山間部にかけて生息し繁殖しているが、個体数は少なく今後さらに減少することが懸念される。警戒心が強く、工場や住宅地などの開発、道路の新設・拡幅などによる影響が心配される。また、ハチ類の幼虫を好んで餌にするため、里山から山間部にかけての多様な生態系が壊れると大きな影響を受けるものと思われる（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【保全上の留意点】**

里山から山間部の自然環境が守られることが大切である。失われつつある里山が、保全・再生され、減少傾向にある豊かな森林が保全されることが望まれる。多様な生物が棲める豊かな環境が保全され、再生されることが必要である。

それとともに、本種を含め、動植物のより正確な生息状況や生態の解明されることが必要である。

**【引用文献】**

森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男, 1995. 図鑑 日本のワシタカ類, pp.22-29. 文一総合出版, 東京.  
 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.18-19. 文一総合出版, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.121.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 020	タカ目 タカ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>オオタカ <i>Accipiter gentilis</i> (Linnaeus)</b>		

**【選定理由】**

周年生息する留鳥であるが、一部は移動する。以前は山間部を中心に生息していたが、近年は平野部や都市部での繁殖も確認されることも稀ではなくなっている。そのため、個体数の増加も期待されたが、やはり全体としては減少傾向にあると思われる。そして、平野部に進出した個体も人との距離が狭まり、営巣場所としては不安定であり、今後増加することは望めず、逆に衰退することが懸念される。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	準絶滅危惧

種の保存法（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律）指定種である。

**【形態】**

全長は雄が 47～52.5cm、雌は 53.5～59cm。  
翼開長は 106～131cm。

雄はハシボソガラスくらいで、雌はより大きい。雄成鳥の上面は暗青灰色。眉班は白く明瞭である。下面は白く、黒褐色の細い横斑がある。虹彩はオレンジ色または黄色。雌は上面に褐色味があり、虹彩は黄色。幼鳥は上面が黒褐色で、下面は淡褐色で黒褐色の縦斑がある。

鳴声はキッ、キッまたはケッケツ、ケーケーなど（五百沢ほか, 2004）。



岡崎市中之郷町, 2004年12月5日, 浅井光 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

市街地近くの丘陵地や山間部で繁殖し、冬期は矢作川や乙川の河川敷や農耕地など平野部でも観察される。個体数は少ない。

**【県内の分布】**

丘陵地から山間部で繁殖し、冬期は河川敷や農耕地でも観察される。個体数は少ない。

**【国内の分布】**

北海道・本州・四国で繁殖し、九州・南西諸島には冬鳥として飛来する。

**【世界の分布】**

ユーラシア大陸・北アメリカに生息する（五百沢ほか, 2004）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

平地から山間部に生息する。繁殖期以外は 1 羽で行動するのがふつうである。林縁部や農耕地・河川敷などで、主にキジ・カモ・カケス・小鳥など鳥類、時には小型の哺乳類を獲って餌とする。早いものは 1 月ころから波状飛翔などディスプレイが始まり、繁殖行動に入る。営巣は主にアカマツであるが、ナラ類の広葉樹やスギなど針葉樹を利用することもある。営巣は、毎年同じ巣を利用する場合と、2～3 個の巣を年ごとにかえる場合がある（森岡ほか, 1995）。

警戒時は雌雄とも「ケッケケツ・・・」と大きな声で鳴く。この他に雌は「ピョウ」と鳴き、幼鳥も同様の声で鳴く。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

野生生物の生態系の頂点に位置するといわれる本種であるが、個体数は少ない。

近年、市街地に近い丘陵地でも営巣が確認される事例が増えているが、本来の営巣地である山間部から、何らかの影響で生息域を変えていると考えられる（愛知県環境調査センター, 2009）。丘陵地や山間部での開発や針葉樹の植林による単一化された森林の増加、そして不十分な森林管理による多様な生物の生息する豊かな森の減少が影響しているためと考えられる。

**【保全上の留意点】**

多様な動植物が棲むことができる豊かな自然環境が保全され、さらに、失われた自然が再生されるとともに、単一化された森が生物豊かな森に整備・管理されることが望まれる。そして、本種は警戒心が強いので、開発や道路建設などには十分な配慮が必要である。

**【引用文献】**

森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男, 1995. 図鑑 日本のワシタカ類, pp.84-91. 文一総合出版, 東京.  
五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.24-25. 文一総合出版, 東京.  
愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.147.  
愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 021	ブッポウソウ目 カワセミ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i> (Latham)</b>		

**【選定理由】**

夏期に渡来し、平地から山地の溪流や湖沼に沿った林などに生息し繁殖する。個体数は少ない。種々の開発や道路の新設・拡幅、河川の整備などによる自然環境の変化が生息数の減少につながっている。

また、山間部のスギ・ヒノキの植林地の増大により、単一的森林となり、餌となる昆虫類やカニ・カタツムリなどが減少している。さらに、それら植林地域が管理不足により生物多様な森林が少なくなることは、昆虫類のさらなる減少につながり、本種の減少にも影響しているものと考えられる。近い将来、本市においては、生息個体が途絶えることが心配される。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	リスト外

**【形態】**

体長 27cm。雌雄ほぼ同色。顎と喉上部は淡褐色。それ以下の体下面は橙褐色。嘴は大きく、鮮やかな赤色。上面は赤褐色で、赤紫色の光沢がある。腰の中央にコバルトブルーの縦線がある。足は赤い（五百沢ほか, 2004）。



長野市戸隠, 2010年5月22日, 安藤ひろみ 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

北東部の山間部の溪流沿いに生息するが、極めて少ない。

**【県内の分布】**

山間部の林に生息し、繁殖するが、個体数は少ない。

**【国内の分布】**

夏鳥としてほぼ全国に渡来し、繁殖する。

**【世界の分布】**

インド北東部・ネパール・ブータン・バングラデシュ・ビルマ北部・マレーシア半島・中国北東部および南西部・台湾・朝鮮半島に分布。冬期、北方のものはフィリピン・マレーシア半島・スマトラ・ジャワなどに渡る（五百沢ほか, 2004）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

平地から山地の林・溪流・湖沼周辺に生息する。番で生活し縄張りをつくる。薄暗い林内で行動することが多いが、早朝や降雨時などは、明るいところにある枯木などに止まって鳴くこともある。

さまざまな小動物を採食するが、昆虫類やカニ・カタツムリ・カエル・魚類などが多い。大きな獲物は枝や岩にたたきつけて弱らせ、骨を砕いてから飲み込む。朽ちた木や崖などに穴を掘るか、キツツキ類の古巣や樹上のアリ塚なども営巣に利用する（叶内ほか, 1998）。民家の軒先に作られたスズメバチの巣を利用して営巣することもある。

繁殖期には雄は「キョロロ・・・」と尻つぼみの声でさえずる。特に朝夕や雨天の日中によく鳴く。威嚇の声は「ケケケ・・・」。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

市内における本種の確認は非常に稀であるが、その多くは、渡り途中の個体が多いと思われる。繁殖期の確認は極めて少なく、確かな繁殖記録は報告されていない。

工場や住宅地などの開発や道路や河川の整備による水質の変化により、また、森林の環境変化により、適した生息・繁殖場所が減少している。水質の良いカニや小魚が棲める溪流や餌の昆虫類が豊富な森など、豊かな自然環境が減少していることが、本種の減少の原因と思われる。

**【保全上の留意点】**

丘陵地から山間部の自然豊かな森や水質豊かな河川環境が長年保たれ、消失した生物多様な自然環境が再生されることが必要である。

また、広葉樹林や針広混交林が保全され、スギ・ヒノキの植林による単一的な森から生物多様な森に再生されることが望まれる。そして、山間部における開発や道路建設、河川整備に際しては、谷や沢の生物に配慮した工事が実施されることが重要である（愛知県環境調査センター, 2009）。

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.106. 文一総合出版, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.398. 山と溪谷社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.136.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 022	キツツキ目 キツツキ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>アカゲラ <i>Dendrocopos major</i> (Linnaeus)</b>		

**【選定理由】**

ほぼ周年通して生息するキツツキであるが、本市においては主に確認は冬期であり生息数は少ない。本市における夏期の生息確認は稀であり、確かな繁殖確認の記録は報告されていない。

昆虫や木の実を餌とするが、生息個体数は少なく、工場や住宅地の開発や道路の拡幅整備・建設、森の植林域の増大や管理不足による森林の環境悪化によっては、さらなる個体数の減少が心配される。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【形態】**

体長 23cm。雄の頭上は黒く、後頭は赤い。黒い顎線は胸と後頭へ伸び、つながる。翼は黒く、小さい白斑がある。肩羽は白く、大きい白斑となって見える。顔と喉から腹は汚白色。下腹と下尾筒は赤い。雌の後頭には赤色はなく黒い。嘴と足は黒い。

幼鳥は雌雄とも頭上は赤い。

キョ、キョと鳴く（五百沢ほか, 2004）。



岡崎市高隆寺町, 2013年1月29日, 小嶋良武 撮影

**【分布の概要】**

**【市内の分布】**

主に冬期に生息するが個体数は少ない。市内での確かな繁殖確認報告はされていないが、繁殖の可能性はある。

**【県内の分布】**

丘陵地から山間部にかけて生息するが、個体数は少ない。冬期には平野部でも観察されることもある。

**【国内の分布】**

留鳥として北海道・本州・四国に生息し、繁殖する。冬期に移動するものもいる。

**【世界の分布】**

カナリヤ諸島・北アフリカ・ヨーロッパからバイカル湖を経てカムチャッカ・ロシア沿岸地方・サハリン・朝鮮半島・中国・インドシナ北部に生息する（五百沢ほか, 2004）。

**【生息地の環境／生態的特性】**

丘陵地から山地の林に生息するが、渡りの時期や冬期には、市街地の公園や市街地近くの川沿いの河川敷などでも観察されることもある。

昆虫類を好んで食べ、木の実も採食する。林内での行動が多く、枯れ木の中にいる昆虫類を取り出して食べる。背丈の低い草地や舗装されていない道路、農耕地など地上に下りて採食することもある。飛翔は大きい波状飛行で、直線的に飛ぶ（叶内ほか, 1998）。

主に枯れ木であるが、生きている木にも自分で穴を掘って営巣する。繁殖期には木を嘴で猛烈に速く突き「ドロロロロ・・・」という音を発てるドラミングをする（叶内ほか, 1998）。

**【現在の生息状況／減少の要因】**

市内においては、秋から春にかけて確認されるが、主に冬期であり生息個体数は少ない。開発等による自然環境の変化や植林地の拡大による画一的森の増加により、餌となる昆虫類や木の実の減少が、本種の減少に影響しているものと考えられる。

**【保全上の留意点】**

むやみに工場や住宅地の造成・開発が実施されることを防ぐ必要がある。さらに、スギやヒノキの植林地が拡大されたまま、これらの森林が十分管理されず放置されることを防ぐことも重要である。生物多様性のある自然環境が失われることを防ぐとともに、豊かな森を再生する取組が必要である。

生物多様性のある森林や里山が保全され、失われた森や利用されなくなった里山が、再び、多種多様な動物や昆虫が棲み、いろいろな植物も生息する、生物多様性のある豊かな自然が再生されることが望まれる。

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.120. 文一総合出版社, 東京.  
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.408. 山と溪谷社, 東京.

（執筆者 小嶋良武）

鳥類 023	キツツキ目 キツツキ科	岡崎市 絶滅危惧Ⅱ類
<b>アオゲラ <i>Picus awokera</i> Temminck</b>		

### 【選定理由】

留鳥として平地から山地のよく茂った広葉樹林や混交林に生息する。森林の手入れが行き届かなくなったことにより、多様な生物が棲める環境が減り、本種の生息数が減少している。さらに、里山の雑木林の利用が減少したために樹木が密生化したこと、カシノナガキクイムシによりナラ類の大木が枯れる被害や竹林の雑木林への進出が本種の生息環境を縮小させている。

本種は生きている木に穴をあけて営巣する。使用済みの巣穴は他の鳥や小型哺乳類の罅や営巣場所としても利用されるので、本種の減少は他の鳥や哺乳類の生息や繁殖にも影響を与える。日本固有種。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

### 【形態】

全長 29cm。中型キツツキ類。雌雄の違いは雄の頭上から後頸と顎線の一部が赤く、雌は頭頂と後頸は赤くなく、顎線の一部と後頭のみ赤い。他は雌雄ほぼ同色で、顔から頸は灰色で、喉は白く、胸は灰褐色。背から尾までと翼は黄緑色で、背と肩羽には灰色味があり、腰と上尾筒には黄色味がある。初列風切は黒褐色で、小さい白斑が並ぶ。尾の先端は黒っぽい。腹から下尾筒は白く、脇と下腹から下尾筒にかけて V 字型の黒斑が並ぶ。額と目先は黒く、虹彩は暗赤色。嘴先端は黒く、上嘴は黒灰色、下嘴はほとんどの部分が黄色。足は灰色（五百沢ほか, 2000）。



岡崎市山綱町, 2013年9月27日, 浅井 光 撮影

### 【分布の概要】

#### 【市内の分布】

留鳥として丘陵地から山地の林に生息し、繁殖する。近年繁殖する個体が少なくなり、見る機会も減少した。

#### 【県内の分布】

留鳥として丘陵地から山地の林に生息し、繁殖する（愛知県ほか, 2006）。

#### 【国内の分布】

日本固有種。留鳥として本州・四国・九州・対馬・種子島・屋久島に分布する。日本全体では 3 亜種が知られている（真木・大西, 2000）。北海道には生息しない。

### 【生息地の環境／生態的特性】

主として広葉樹林や混交林に生息して、幹を突きながら樹皮の隙間や枯れ枝などで餌を探しながら、木から木へと移動する。クモ類、アリなどの昆虫類を食べ、冬期は木の実や果実も食べる。「ピョーピョーピョー」、「ケレケレケレ」、「キョッキョッキョッキョ」と鳴く。飛び立つ時は「ケケケ・・・」と大きな声で鳴く。生きた木に巣穴をほることが多く、他のキツツキ類のように枯れ木に巣を作ることは少ない。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

近年、里山の利用が減っているために、豊かな広葉樹林や混交林が減少し、加えてスギ・ヒノキの植林地は放置されることが多く暗い林が増加し、多様な生物が棲める森林が減退している。竹林の侵入が広葉樹林・混交林に広がり、本種の生息や繁殖環境を縮小させている。更に近年カシノナガキクイムシによる、ナラ類の大木が枯れる被害が拡大し、広葉樹林を減少させている。

このような環境変化が本種の生息や繁殖に影響して個体数を減少させていると考えられる。

### 【保全上の留意点】

里山の保全、竹林の伐採、植林地の間伐による森林の健全化に努力すべきである。カシノナガキクイムシについては、主にコナラの大木が被害にあっているため、早急な対応策がとられ、コナラを中心とした、生物多様性ある雑木林に作り直していく必要がある。

### 【引用文献】

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.104. 文一総合出版社, 東京.  
真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.388. 平凡社, 東京.  
愛知県・愛知県野鳥保護連絡協議会, 2006. 愛知の野鳥, p.91. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

（執筆者 浅井 光）